

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

予測困難な時代に一人一人が未来の創り手となるために

- 1 生徒の豊かな人間交流を促し、広い視野を持つ、健全な社会人、国際人としての成長を図る。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

## 2 中期的目標

## ア 総合学科としての基礎を固める

- (1) 17人に1人が外国にルーツを持つという本校の特性を生かす。他者と共感・協働できるようにする。
- (2) 95%が自転車通学をしている、地域に根差した学校である。フィールド・エリアや系列などで学んだことを生かし、地域に貢献できるようにする。
- (3) 総合学科生として、生徒が自らの「やりたいこと」「できること」「やるべきこと（個人として、地域社会で、未来の創り手として）」を理解し、進路を実現するための積極性と持続力を持つことができるようにする。
- (4) そのすべての基礎として、基礎的、基本的な知識を身につけ、応用し、自分自身で考える（自立・自律的に）ことができるようにする。
- (5) その上で、希望進路を実現する。

なにもないところに  
みちをつくれ  
はしりだそう  
やりたいことはここにある

そのために

## イ 確かな学力の育成

- (1) カリキュラム委員会においてカリキュラム・マネジメントを確立し、新学習指導要領などで求められる力を育てる。
  - ア 各教科等の内容を相互の関係でとらえ、3年間で生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるように総合学科としてのカリキュラムを実施する（「何ができるようになるか」を考える）。また新課程に向け新カリキュラムを検討する。
  - イ 「何が身についたか」の評価方法を検討する。
- (2) 各教科を中心とした授業改善に取り組む。
  - ア どういう内容を、どう学ばせるか、各年度の振り返りなどをもとに本校としてのスタンダードを作り上げる。（生徒が「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を教科として共通認識とする。）
- (3) 主体的、対話的で深い学びをめざす。
  - ア 公開授業や研究授業、授業アンケートなどを活用した授業改善(特に生徒が「どのように学ぶか」に重点を置き)に組織的に取り組む。
  - イ GU（グロウアップ）ルーム、ネットワークルームを活用した授業の研究を進める。（「ICTを活用し、どのように学ぶか」の視点）
  - ウ 「授業力アップチーム」を核に、教員相互の授業見学と研修を行う。また、外部の参考となる授業の見学も行う。
  - エ 生徒自身が自ら学び、授業以外でも学習できるように取り組む。

※授業アンケートにおける「興味関心を持った」「知識技能が身についた」の肯定割合（H29年度80%）を2020年度には85%をめざす。

※学校教育自己診断（生徒向け）での「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定的評価を、2020年度までに80%以上（H29年度78%）をめざす。

## ウ 生徒の「やる気」スイッチをオンにする

- (1) 効力感、達成感の育成
  - ア 教科や教科横断的な行事などの中で自己表現したり、認められたりする場を広げる。
  - イ 教科学習と学校行事、部活動等の活動との両立を支援するとともに部活動参加率70%以上をめざす（H29 66%）。
  - ウ 小学校、中学校、大学との連携（出前授業・部活動指導など）を深める。また地域でのボランティアなどの貢献活動を継続する。
  - エ 生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や態度を育む取組みを充実させる。
- (2) キャリア教育の推進、キャリアアンカーの形成
  - ア 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、3年間を通じたキャリア教育を充実させる。
  - イ 生徒の考える力・まとめる力・発表する力等を育成するため、フィールド・エリアでの発表や、地域での出張授業、研修なども企画する。
- (3) 進路実現の支援
- (4) 資格取得の推進

※学校教育自己診断（生徒向け）で「ガイダンスは分かりやすい」の肯定的評価を、2020年度までに+5（80）%（H29年度75%）をめざす。

「進路や生き方を考える機会がある」の肯定的評価で、2020年度において85%以上を維持（H29年度93%）

※四年制大学進学希望者（第3学年当初）の一般入試受験率を、2020年度までに+5（45）%（H27～H29年度平均40%）をめざす。

## エ 安全で安心な魅力ある学校づくり

- (1) 生徒の規範意識を醸成する
  - ア 生徒が自らの行動を律することできるように、社会規範に照らして適切な生徒規範を定め、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
- (2) 生徒が安心して学校生活を送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。
  - ア 課題のある生徒についてSCと緊密に連携しながら生徒情報交換会、ケース会議等を実施し、教員、養護教諭等が協力しながら指導方針を明確に示していく。
- (3) 保護者連携・地域連携を一層推進していく。

※学校教育自己診断（保護者・生徒向け）での「よく相談にのってくれる」項目の肯定的評価を、2020年度まで保護者向け75%以上を維持（H29年度75% H28年度77%）生徒向け70%（H29年度69% H28年度63%）をめざす。

## オ グローバル人材の育成

- (1) 日本語指導の必要な帰国生徒・外国人生徒の指導
  - ア 出身中学、母語指導者等との密接な情報交換を定期的に行い、渡日・外国人生徒の指導を行う。
  - イ 日本人生徒との交流の促進

## (2) 国際交流の推進

- ア 生徒の短期語学研修の実施（英語圏、中国語圏、等）  
イ 外国の学校との相互交流の実施

※語学研修の回数を年2回程度、参加者を15人程度(H27年度9人、H28年度13人 H29年度17人)対象で実施する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見		
(表内の数字は生徒回答の肯定的回答率%) 生徒たちは本校に来る意義を感じている	第1回 7月18日		
	H30	H29	H28
学校に行くことに意義を感じている	80	78	80
門真なみはや高校に入学してよかったと感じている	84	86	86
この学校は自分にあったフィールドや科目がある	85	84	81
授業を受ける環境が整っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画について本年度の取組みの説明があり、その内容について理解が示され承認された。</li> <li>今年度から始めた朝のSHRが充実したものとなるように、工夫を凝らして取り組んでもらいたい。</li> <li>予習・復習を行っている生徒が少ない現状を踏まえて、授業以外の学習時間の増加についてがんばっていただきたい。</li> <li>部活動への加入率が、ここ二年で低下していたが、1年生ではいろいろな働きかけを行い少し回復したということをお聞きしたが、引き続き部活動が充実するようにお願いしたい。</li> <li>生徒の資格取得(英検、漢検、パソコン検定等)を推進にも継続して取組みをお願いしたい。</li> </ul>		
	H30	H29	H28
生徒が静かに授業を受ける環境がある	79	80	78
教室はきれいで、授業を受ける態勢ができています	85	83	79
授業における教え方の工夫において改善の余地がある 生徒が自分の考えをまとめ、発表する機会は増えてきている 補習、講習は十分に行われている	第2回 10月17日 授業見学後の感想		
	H30	H29	H28
教え方に工夫をしている先生が多い	76	78	72
授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある	84	82	78
授業の補習や進学講習は十分用意されている	88	90	86
様々な指導について、まだ生徒に対する説明が足りない面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生が工夫し、生徒に興味関心を持たせることが深まってきている。</li> <li>先生の呼びかけに対し、生徒の反応が弱いと感じる場面もあった。</li> <li>学ぶ目的を明確にし、アプローチしていると感じた。</li> </ul>		
	H30	H29	H28
学校の制服・遅刻・頭髪指導は適切だと感じる	71	71	79
学校生活について先生の指導は納得できる	74	73	76
先生は、生徒に対して適切な態度や言葉遣いで接している	81	84	83
生徒会行事に意義を感じる生徒は増えてきている	提言		
	H30	H29	H28
文化祭、体育祭、球技大会などの生徒会行事は有意義である	91	89	85
将来の進路、生き方について十分考える機会が与えられている	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の生徒、教職員の安否確認のシステムの確立に取り組んでほしい。</li> <li>フィールドの発表会等をVTRに撮り、中学生が閲覧できるようにしてはどうか。</li> <li>災害が予想され、前日にJR等が運休することがわかっているなら、その時点で翌日の休校の措置を取ってはどうか。</li> </ul>		
	H30	H29	H28
将来の進路や生き方について考える機会がある	94	93	90
命の大切さや、社会のルールについて学ぶ機会があると見える	第3回 1月23日		
	H30	H29	H28
命の大切さや、社会のルールについて学ぶ機会がある	88	86	83
この学校では、十分人権に配慮がなされている	<p>&lt;審議事項&gt;</p> <p>○学校経営計画について</p> <p>自己評価について</p> <p>Q：学習指導要領改訂の学校経営への影響はどんなところか？</p> <p>A：学校経営というより、主体的・対話的な深い学びがより必要となるので、授業が変わる。知識を伝えることにとどまらない、教科の取組みが変わる。教科横断的な進め方も大切な要素。</p> <p>Q：「進路や生き方を考える機会がある」について昨年より数値が上がっている。具体的にどのような面でそのような実感があるか？</p> <p>A：授業では、産業社会と人間など、特別活動では、「先輩にきく」の取組みなど。科目選択の際に、卒業後の進路をつなげて指導している。</p> <p>&lt;意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の課題として挙げられている、新学習指導要領についての研修の充実を望みたい。</li> <li>学校に適應できない生徒に対し、学校に来るように指導することについて疑問がある。「逃げてもいい」という選択肢があってもいいのではないかと。</li> <li>(学校教育法) 一条校としては、「学校に来る」ことを基本として指導していくことは避けられない面がある。</li> </ul> <p>○学校教育自己診断について</p> <p>&lt;意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肯定値を目安としているが、どちらかというとプラスという回答が多くなる傾向がある。「あてはまる」の数値が高いかどうかに着目することが必要。</li> </ul> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>各分掌より今年度の取組みについて報告</p>		
	H30	H29	H28
この学校では、十分人権に配慮がなされている	90	89	91
生徒が教員に対してより相談しやすい環境を作る必要がある いじめがないと言い切れない生徒が10%程度いる	<p>&lt;意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肯定値を目安としているが、どちらかというとプラスという回答が多くなる傾向がある。「あてはまる」の数値が高いかどうかに着目することが必要。</li> </ul>		
	H30	H29	H28
何かあれば、相談できる先生がいる	73	69	62
この学校では、教職員が「いじめ」がおこらないように気を配っている	75	79	85
この学校では、生徒間の「いじめ」はみられない	89	92	91
制度説明が適切になされている	<p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>各分掌より今年度の取組みについて報告</p>		
	H30	H29	H28
フィールドや選択科目のガイダンス・指導はわかりやすい	84	75	74
この学校は奨学金制度について、紹介や説明がなされえている	93	90	86

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価											
イ 確かな学力の育成	(1) 新カリキュラムの検討	ア カリキュラム委員会で次期指導要領の内容の研究、新カリキュラムの検討をする。	ア カリキュラム委員会 実施回数 10 回/年 ・ 職員研修 1 回以上	ア カリキュラム委員会は現在 8 回実施 新学習指導要領実施に向けて、現行との違い、授業の重点項目、具体的な授業改善の例、他教科とのコラボを各教科考え、まとめた。(△) 職員研修は実施せず。(△) (H31, 4 月に予定)											
	(2) 各教科を中心とした授業改善	ア 各教科が、各科目で「身につく知識・技能」や「できるようになること」を意識したシラバスや授業計画を作成する。 また、科目間の関係を各教科で再確認し、「My Design 作成の手引き」としてまとめ、履修指導に活用する。	ア 次期指導要領につながるシラバス・授業計画の作成率 (全教科対象 100%)	ア 次期指導要領につながるシラバス・授業計画の作成率 100% (○)											
	(3) 主体的、対話的で深い学びをめざす	ア 授業アンケートの結果を教員及び教科等にフィードバックする。 イ ICT などを活用し、教え方の工夫や教材等の共有化を複数教科で図るとともに、生徒自身の発表の機会などを積極的に設ける。 ウ 教員相互の授業見学と研修 ・ 教育実習期間に合わせた教職経験の少ない教員による授業見学及び研修の実施 ・ (初任者がいないため初任者に関する記述を削除した) エ 自主的な学習の推進 ① 授業以外の学習時間を、9 月時点で前年比 10%以上の増加を図る。 ② 今年度より朝の SHR を実施。その定着を図るとともに、各学年で 10 分間の活用方法を模索検討する。	ア 授業アンケート全項目の肯定平均 80%の維持 (H29 80.5%) *非常勤講師を除く イ ① 自己診断 (生徒) で「教え方を工夫している先生が多い」 (H29 78%→ 80%) ③ 各学年とも発表の機会を年 1 回以上 ウ 教職経験年数 3 年未満の教員は最低 1 回授業見学を行う。(H29 1 回) ① 学習時間平均 1 年生 30 分 (H29 26 分) 2 年生 30 分 (H29 20 分) ② 各学年で活用案が出てくるかどうか。	ア 授業アンケート 1 回目の全項目の肯定平均は 82.9%、2 回目 84.0% (◎) イ ① 「教え方を工夫している先生が多い」 78%(H29) → 76%(H30) (△) ③ 全学年で発表の機会を 1 回以上持った。(○) ④ 教職経験年数 3 年未満の教員は授業見学を行った。(○) ① 学習時間平均 (△) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 年生</td> <td>26 分</td> <td>29 分</td> </tr> <tr> <td>2 年生</td> <td>20 分</td> <td>26 分</td> </tr> <tr> <td>3 年生</td> <td></td> <td>47 分</td> </tr> </tbody> </table> ② 朝の SHR は定着している。 各学年がそれぞれ活用している。(○) 1 年 火・木・金曜日に国語のドリル学習 2 年 小テストのための準備学習、宿題の点検 3 年 進路関係提出書類の確認、小テストのための準備学習		H29	H30	1 年生	26 分	29 分	2 年生	20 分	26 分	3 年生	
	H29	H30													
1 年生	26 分	29 分													
2 年生	20 分	26 分													
3 年生		47 分													

府立門真なみはや高等学校

<p>ウ 生徒のやる気スイッチをオンにする</p>	<p>(1) 効力感、達成感の育成</p> <p>(2) キャリア教育の推進</p> <p>(3) 進路実現の支援</p> <p>(4) 資格取得の推進</p>	<p>ア 教科や行事等で自己表現したり、認められる場を広げる。</p> <p>イ 部活動参加率 部活動の説明会などを充実させ、全学年の生徒の部活動の加入率を高める。</p> <p>ウ 地域連携 地域の小中学校への出前授業や、他の機関と連携して地域に根差した学校とする。</p> <p>ア 「産業社会と人間」から始まる3年間のキャリアプランの作成・2, 3年生のキャリア教育の充実</p> <p>イ 生徒が選択を通じて自己実現を図るガイダンス機能を充実する。</p> <p>ア 多様な学びの中で形成した個々の力を最大限に発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。</p> <p>ア 生徒が資格取得の意義を理解できるように生徒に積極的な働きかけを行う。</p>	<p>ア ・発表会などの回数（各学年1回以上） ・「授業でまとめ・発表の機会がある」（生徒用学校教育自己診断）80%程度を維持（H29 82%）</p> <p>イ 70%以上をめざす（H29 65%）</p> <p>ウ 市内小中学校との連携（1回以上）（H29 1回） 地域諸機関との連携（中小企業家同友会、門真市教育委員会など）1回以上（H29 2回）</p> <p>ア 「進路や生き方を考える機会がある（学校教育自己診断生徒用）」の肯定的評価 85%以上を維持（H29年度 93%）</p> <p>イ 生徒用学校教育自己診断で「ガイダンスはわかりやすい」とする割合 70%以上。（H29 75%）</p> <p>ア ・四年制大学希望者（第3学年当初）中の一般入試受験率 40%以上を維持。（H29 41%） ・就職内定率 100%を維持</p> <p>ア 受験者数の維持</p> <p>・漢字検定受験者数 150名（H29 176名） ・英語検定準2級以上（CEFR A2以上）の生徒数 40名（H29 35名） ・選択したフィールド・エリアに関する資格試験の受験率（パソコン検定など 80%以上）</p>	<p>ア 発表会は各学年1回以上実施（○） 「授業でまとめ・発表の機会がある」82%（H29）→ 84%（H30）（◎）</p> <p>イ 部活動参加率は 66%（△）</p> <p>ウ</p> <p>・ 11月門真第2中学校で出前授業 ・ 4月、9月に地元小学校区の高齢者のお祭りに吹奏楽部、多文化交流部が参加。 ・ 8月に寝屋川市の老人介護施設を多文化交流部が訪問・10月にロック研究部が近隣施設で演奏 ・ 10月多文化交流部が門真市の特別養護老人ホーム三養苑にてボランティア活動 ・ 11月大和田地域ダンスフェスティバル参加（ダンス部）・門真市図書館協議会出席（2回）（◎）</p> <p>ア 「進路や生き方を考える機会がある」93%（H29）→ 94%（H30）（○）</p> <p>イ 「ガイダンスはわかりやすい」75%（H29）→ 84%（H30）（◎）</p> <p>ア</p> <p>・ 四年制大学希望者（第3学年当初）中の一般入試受験率 24%（△） ・ 就職内定率 96%（○）</p> <p>ア 漢字検定受験者数 176人（H29）→ 132人（H30）（△）</p> <p>・ 英語検定準2級以上の受験者数 35人（H29）→ 45人（H30）（○） ・ 選択フィールド：パソコン検定受験率（100%） 中国語検定（12名合格） 韓国語検定（2名合格 12月に4名受験、結果待ち） 日本語能力試験（6名合格 12月に9名受験、結果待ち）（○）</p>
<p>エ 安全で安心な魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成</p> <p>(2) 課題をかかえる（困り感のある）生徒の支援</p> <p>(3) 保護者連携・地域連携の一層の推進</p>	<p>ア 規範意識を持たせる。通学に自転車を使う生徒が大部分であるので、合羽着用などの自転車運転上の安全意識を涵養する。</p> <p>イ 情報リテラシーの育成。特にSNSの利用について、リテラシーを高める。</p> <p>ア 軽微なことでも生徒についての情報を共有する生徒情報交換会を継続実施</p> <p>イ 生徒の相談しやすい相談室を充実する。心や発達のことで困っている生徒を支援する支援委員会、生活や家庭のことに困っている生徒の「学び」を保障する修学保障委員会を早期から必要に応じ開催する。</p> <p>ア 保護者連携の推進のため、メールの一斉配信など確実な連絡を行う。</p>	<p>ア 学校教育自己診断（生徒向け）規範意識に関する項目の肯定率 75%以上（H29 71%）</p> <p>イ SNSなどでの情報リテラシー育成のため、生徒の研修を行う（年1回以上）</p> <p>ア 生徒情報交換会の実施（年5回）</p> <p>イ 学校教育自己診断（生徒向け）「何かあれば相談できる先生がいる」70%以上（H29 69%）</p> <p>ア 保護者メール配信システムの維持。またそれにより、教員の保護者連絡の負担を一部軽減する。</p>	<p>ア 機会あるごとに生徒に対して話をしている。規範意識に関する項目の肯定率 71%（H29）→ 78%（H30）（○）</p> <p>イ SNS利用についての生徒向け研修は新入生対象に実施済み（○）</p> <p>ア 生徒情報交換会は6回以上実施済み（○）</p> <p>イ 「何かあれば相談できる先生がいる」69%（H29）→ 73%（H30）（○）</p> <p>ア メール配信システムを継続利用している。（○）</p>
<p>オ グローバル人材の育成</p>	<p>(1) 日本語指導の必要な帰国生徒外国人生徒の指導</p> <p>(2) 国際交流の推進</p>	<p>ア 合格時からの指導の充実</p> <p>ア 生徒の短期語学研修の充実</p> <p>イ 外国の学校との相互交流の実施</p>	<p>ア 高校生活が円滑にスタートできるよう合格決定後から早期の支援を実施する。（新規）</p> <p>ア 短期語学研修参加者 12名程度（H29 17人）</p> <p>イ すべてのフィールド・エリアを含めた交流受入数 1校以上（H29 1校）</p>	<p>ア 日本語能力試験を実施し、日本語力に合わせて抽出授業のクラス分けを行っている。通訳を活用し、学校生活のスタートに当たっての指導を行っている。（○）</p> <p>ア 8月、グアム語学研修に4名の生徒が参加 12月、韓国研修に8名の生徒が参加（○）</p> <p>イ 4月に台湾の高校の訪問があった。（○）</p>